

様々な分野の組織、機関とのネットワークを強化し、生活・福祉課題や地域ニーズに対応します

岩手県社会福祉協議会 会長 桑島 博



新年おめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年を迎えたことと存じます。心よりお慶び申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発生から五度目の新年を迎え、沿岸被災地では災害公営住宅の建設をはじめ、復興に向けた取組みが懸命に進められています。しかしながら、今なお多くの方々が生活の再建には至っておらず、県社協として、市町村社会福祉協議会をはじめ関係機関・団体と連携しながら、引き続き被災された方々に寄り添い、共に復興に向けた歩みを進めています。

一方、社会福祉の情勢全般に目を向けてみると、近年、我が国では、少子高齢化や核家族化、人口減少等が進む中で、社会的孤立や生活困窮など、多様かつ複合的な要因による様々な生活・福祉課題が顕在化しつつあります。こうした課

題に対応するため、新たな生活困難者自立支援制度や子ども子育て支援新制度がスタートしており、

さらには、地域包括ケアシステムの構築が打ち出され、その取組みも始まっています。

また、社会福祉法人制度改革の観点からは、事業運営の透明性の向上や財務規律の強化などに加えて、社会福祉法人による公益的な活動の推進が期待されているところです。

これらの動きに共通するのは、縦割りの弊害をなくすために、多様な主体が連携し、各種制度や地域の資源を横断的につなぎ、制度間のすきまを埋めようとする理念であり、その推進の舞台となるのは、正に私たちが住むそれぞれの地域であります。こうした状況を十分に踏まえて、社会福祉関係者をはじめとする様々な主体の協働が機能を発揮できるよう、これまで以上に力を尽くし、豊かな福祉社会の実現に向けて、常に前向きな姿勢で努力して参りたいと考えております。皆様の、一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

岩手県社会福祉大会開催

第68回岩手県社会福祉大会が11月11日に岩手県民会館で開催（主催・

岩手県社会福祉協議会・岩手県共同募金会・岩手県民生委員児童委員協議会）され、社会福祉関係者等、約

1,400余名が参加しました。

式典では、物故社会福祉事業関係者へ黙祷が捧げられた後、永年の社会福祉事業推進の功績により、25名、19団体、3組が表彰されました。記念講演では「クラウン（道化師）」が語る「みんなの笑顔のために、今、私にできること」と題し、

NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長の大棟耕介氏の講演が行われました。東日本大震災津波から5年目を迎えた中で、「豊かな福祉社会の実現」のため、大会宣言では、「一、被災者や、制度のはざまで困窮する人々が抱える様々な生活課題の解決に向け、公的福祉サービスの利用援助などを加えて、制度によらない住民主体の活動や、福祉に関わる事業者の連携協働のもとに、新たな支援策を



積極的に展開するこ

と「一、福祉教育の推進やボランティア活動